

飯伊 産業経済動向

No.447 2016/6
(28.7.25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,934	枚	△	12.4 %	△	22.4 %
	金額	4,815,045	千円	△	3.9 %	△	22.6 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 1 枚)		(前年同月 2 枚)	
	金額	0	千円	(前月 10 千円)		(前年同月 3,000 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	6	件	(前月 5 件)		(前年同月 8 件)	
	飯伊	2	件	(前月 0 件)		(前年同月 3 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(5月)		45	戸		21.6 %		0.0 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(5月)		1.27	倍	(前月 1.26 倍)		(前年同月 1.12 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,485	台		18.1 %	△	9.1 %
	中古車	770	台		31.4 %		6.5 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(5月)	新車	2,914	台		0.3 %	△	14.3 %
	中古車	1,054	台	△	25.2 %		6.3 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	110,614	台	△	5.3 %		1.0 %
	出	109,798	台	△	6.0 %		0.0 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	72,976	台	△	4.6 %		0.7 %
	出	72,259	台	△	1.1 %		1.6 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	9,642	台	△	42.5 %	△	25.1 %
	出	9,825	台	△	45.1 %	△	24.2 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	37,297	台	△	16.4 %	△	5.2 %
	出	36,899	台	△	16.6 %	△	3.9 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		158	件		14.5 %	△	9.2 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		7	件	(前月 1 件)		(前年同月 0 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,591	人	△	20.0 %	△	5.5 %
	飯田～名古屋	14,856	人	△	12.3 %		1.1 %
	飯田～長野	9,900	人	△	4.4 %	△	5.0 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,463	人		4.2 %	△	4.8 %
	右回り	3,326	人		3.9 %	△	10.8 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

6月の業況判断指数(DI)は、プラス6.7で、前月から38.8ポイント上昇。翌月予測はマイナス13.3で、前月から6.7ポイント上昇している。

半導体関連部品、電子部品やモーター制御向け基盤など電気・精密機械部品の販売は、「一定の顧客への販売が好調」など前月比増加との声が聞かれたほか、概ね横ばいとの声が聞かれ、景況感は横ばい～好転。半導体、液晶製造装置向け部品の受注残高は、前月比やや増加。しかし、景況感が好転した業者は見受けられない。産業機器関連、医療機器部品では、受注残高の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばい～やや増加とする業者が多い。建築用金属製品の販売は、前月比減少との声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比、前年比とも減少、景況感も悪化との声。小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばい。一部に前年比減少との声も。FA関連モーターの受注残高の前月比は、「産業機械向け、車載向けともほぼ横ばい」との声が寄せられた。レンズ、光学機器の販売は、前月比横ばい～やや増加、前年比はやや増加との声が多いが、景況感の好転には至っていない。電気、電子製品の生産は、前月比増加。景況感も好転との声が寄せられたほか、景況感の好転には至らないものの、受注残高の前年比が増加した業者も見受けられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が多い。「大分景気も戻りつつある」など景況感が好転した業者も複数見受けられた。「イギリスのEU離脱など不安定要素は大きくなっている」など経済情勢を懸念する声。水引製品の販売の前月比は、「計上のズレにより」増加との声もあるが、やや減少～横ばいの様子。「概ね静かな業況」などの声。漬物の販売は、前月比減少、前年比概ね横ばいとの声が寄せられた。

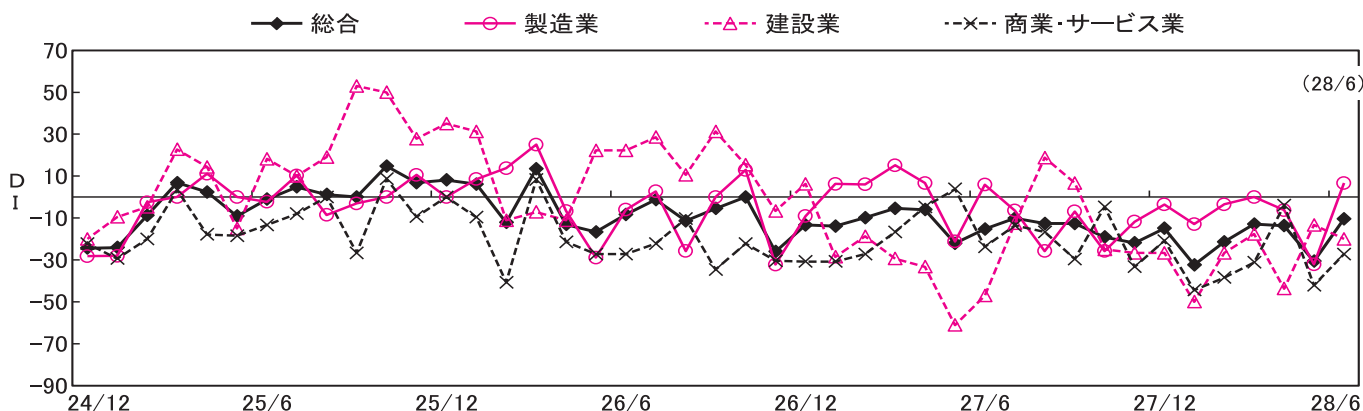
建設業

6月の建設業の景況DIは、マイナス20.0で、前月から6.7ポイント下降。翌月予測DIは、プラス6.3で、前月より6.3ポイント上昇している。当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約19.5億円で、前月比は18%増加、前年比は2%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「今月に入り発注が出た」など横ばい～やや増加との声が多い。景況感は、「受注単価の回復により好転」などの声はあるものの、総じてさほど好転しておらず、「公共事業は、昨年同様発注が少ないのでは。建設業はお盆過ぎまで暇ではないかと思われる」などの声が多い。民需の住宅着工戸数(5月)の住宅着工戸数は45戸。前月比22%増加、前年比は横ばい。当月の調査先業者の受注残高の前月比は、やや増加との声も複数聞かれたが、こうした業者でも前年比が減少していることなどから景況感が好転した業者は見受けられない。

商業・サービス業

6月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス27.3と、前月より14.8ポイント上昇。翌月予測DIも、0.0で、前月より47.4ポイント上昇している。食料品の売上は、一部に「年対比微増」との声があるものの、前年比やや減少との声が多い。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も景況感の好転には至っていないという。家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともにやや増加との声。家電の売上は前月比やや減少～概ね横ばい、前年比は減少。OA機器の売上は、前月比、前年比ともに減少との声。衣料品の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい。娯楽用品の売上は、前月比横ばい、前年比減少も、景況感の悪化には至らないとの声。土産物関連の売上の前月比は業者により増減分かれる。「来店客数減少による売上減に歯止めがかからず苦戦」などの声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比18%増加、前年比は9%減少。5月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比ほぼ横ばい、前年比は14%減少。自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比ともに減少という。市内料理店の売上は、前年比減少。「昨年は例年暇になる6月が好調だったが、今年は例年にも増して暇な日が続いた。原因は定かでないが今までにない落ち込み」などの声。市内ホテルの売上は、前年比やや減少との声。昼神温泉の売上は、一部に横ばいとの声もあるが、前月比、前年比ともに減少との声が多い。旅行代理店の売上は、前月比やや増加との声。タクシーの売上は、前月比横ばい。「前年対比の落ち込みは少なくなっているが、上向き感は全く感じられない」などの声が寄せられた。

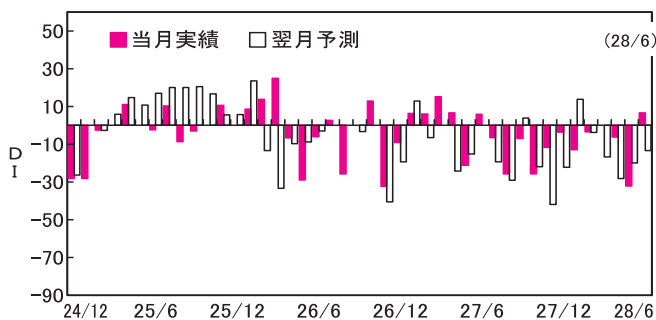
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績 6.7 (前月 -32.1)
 翌月予測 -13.3 (前月 -20.0)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス6.7で、前月から38.8ポイント上昇。翌月予測はマイナス13.3で、前月から6.7ポイント上昇している。

独立行政法人労働政策研究・研修機構は、平成26年5月、「人口減少社会に突入し労働力人口も減少することが見込まれ、高齢者の活用に注目が集まっている」中、「60代の高年齢者を対象に雇用・生活の全般を質問し、今後の高齢者雇用のヒントを得る」べく、全国の60～69歳の5,000人を対象に「60代の雇用・生活調査」を行った。

調査項目は多岐に渡るが、高齢者の就業状況について見ると、「60代の不業者のうち26.0%が就業を希望しており、特に60代前半層の男性の不業者のうち42.9%が就業を希望している」という。

図表1 高齢者の就業状況（平成26年6月）（単位：%）

区分	高齢者総数	就業者 (収入になる 仕事をした者)	不業者 (収入になる 仕事をしな かった者)	
			うち 就業希望者 (仕事をしたいと 思いながら仕事に 就けなかった者)	うち 非就業希望者 (仕事をしたいと 思わなかった者)
総数	100.0	55.5	44.5 (100.0)	32.0 (71.9)
60～64歳	100.0	62.7	37.3 (100.0)	26.0 (69.7)
65～69歳	100.0	47.4	52.6 (100.0)	38.6 (73.6)
男性(計)	100.0	65.9	34.1 (100.0)	20.8 (61.1)
60～64歳	100.0	74.8	25.2 (100.0)	13.2 (52.5)
65～69歳	100.0	55.6	44.4 (100.0)	29.7 (66.9)
女性(計)	100.0	45.6	54.4 (100.0)	42.5 (78.2)
60～64歳	100.0	50.8	49.2 (100.0)	38.5 (78.3)
65～69歳	100.0	39.9	60.1 (100.0)	47.0 (78.2)

(注) 1. 無回答：略
 2. 行中の下段の数値は、不業者=100.0とした場合の内訳を表す。
 3. 総数について、不業者=100.0とした場合の内訳における無回答率は2.1%(下段)

上記の表で就業希望者に「仕事に就けなかった主な理由」を尋ねた結果を見ると、自分及び家族の「健康上の理由」が半数弱を占め、「適切な仕事が見つからなかった」がこれに次ぐ(図表2)。平成21年調査と比べ、「自身の健康上の理由」を挙げる割合が上昇した一方、「適切な仕事が見つからなかった」とする割合は60～64歳層を中心に低下し、「雇用継続が進展する中、60～64歳層で仕事のない人の理由では、仕事に直接関係しない事情のウェイトの高まりが示唆される」という。

図表2で「適切な仕事が見つからなかった」とした人に、更にその理由を尋ねたところ(図表3)、「条件にこだわらないが、仕事がない」が最も多く、次いで「職種が希望と合わなかった」、「労働時間が希望と合わなかった」が続く。「賃金、報酬が希望と合わなかつ

た」とする割合は、全体で多いとは言えないが、男性の60～64歳層でやや多くなっている」という。

図表2 仕事をしたいと思いながら仕事につけなかった主な理由(調査時点で仕事をしたいと思いながら仕事をしなかった人)

〈H26調査〉 (%)

	該当者数 (千人)	計	適切な仕事 が見つから なかった	起業・開 業の準備 中であつ た	請負や内 職の仕事 の注文が こなかつ た	自身の健 康上の理 由(介護 等)	家族の健 康上の理 由(介護 等)	家庭の事 情(左記 を除く 家事など)	その他	無回答
男女計	2,099	100.0	36.2	0.6	1.5	32.7	15.9	9.5	3.0	0.6
60～64歳	1,006	100.0	35.2	0.7	0.7	34.2	16.0	9.5	3.4	0.4
65～69歳	1,093	100.0	37.1	0.5	2.3	31.3	15.8	9.5	2.7	0.8
男性計	1,054	100.0	40.8	1.2	3.0	35.6	12.9	4.0	2.5	0.0
男性・60～64歳	513	100.0	43.0	1.4	1.3	35.7	12.2	3.5	3.0	0.0
男性・65～69歳	541	100.0	38.7	0.9	4.6	35.6	13.7	4.4	2.0	0.0
女性計	1,044	100.0	31.5	0.0	0.0	29.7	18.9	15.1	3.5	1.2
女性・60～64歳	493	100.0	27.0	0.0	0.0	32.6	20.0	15.8	3.7	0.7
女性・65～69歳	551	100.0	35.5	0.0	0.0	27.1	18.0	14.5	3.3	1.6

図表3 適切な仕事が見つからなかった主な理由(調査時点で仕事をしなかった理由として適切な仕事が見つからなかったとした人)

〈H26調査〉 (%)

	該当者数 (千人)	計	職種が希 望と合わ なかつた	労働時間 が希望と 合わなかつ た	賃金、報 酬が希望 と合わなかつ た	通勤時間 が希望と 合わなかつ た	条件にこ たわらな いか、仕 事がない	その他	無回答
男女計	759,023	100.0	30.1	16.1	4.1	1.5	37.6	4.7	5.8
60～64歳	353,779	100.0	36.0	19.0	8.8	0.0	25.7	4.4	6.1
65～69歳	405,243	100.0	24.9	13.5	0.0	2.9	48.1	5.0	5.7
男性計	430,202	100.0	36.1	9.1	6.0	1.2	36.2	5.1	6.4
男性・60～64歳	220,472	100.0	35.7	11.7	11.7	0.0	29.6	4.5	6.8
男性・65～69歳	209,730	100.0	36.4	6.4	0.0	2.4	43.0	5.7	6.0
女性計	328,820	100.0	22.2	25.2	1.6	2.0	39.6	4.3	5.1
女性・60～64歳	133,308	100.0	36.5	31.2	4.0	0.0	19.1	4.4	4.8
女性・65～69歳	195,513	100.0	12.5	21.1	0.0	3.4	53.6	4.2	5.3

(図表の出典は全て、独立行政法人労働政策研究・研修機構)

機械加工製造業

半導体関連部品、電子部品やモーター制御向け基盤など電気・精密機械部品の販売は、「一定の顧客への販売が好調」など前月比増加との声が聞かれたほか、「受注の増減に大きな変化はなく、得意先毎の増減はあっても全体のバランスは保っている」など概ね横ばいとの声が聞かれ、景況感は横ばい、ないし好転している。「液晶関係で海外設備向けの引合が継続し、有機EL向け設備でも海外向けが来年夏ごろまで継続するとの報。その他半導体関係で、国内向けの仕事が、多少の波はあるものの、来春ごろまでは続くとの情報もある」との報が寄せられた。雇用面で「ハローワークに求人を出した」「不足」などの声が聞かれたほか、設備面でも積極的な声が少なくない。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注残高は、前月比やや増加。「スマホ関連調整中」との声はあるものの、「FPD関連は良好。IoT向け開発増」「一部製品は8月からの増産に向け、前倒して納入」などの声が寄せられた。しかし、景況感が好転した業者は見受けられない。先行きの見方は分かれる。原材料、資材価格に関し当月大きな動きはなく、「原材料下げ止まり」との声。製品価格は「コストダウン要求あり」との声は聞かれたものの、大きな動きはなかった様子。雇用面で積極的な声は聞かれなかった。設備面では、一部に「実施済み。今後の予定はない」「なし」などの声。

産業機器関連、医療機器部品では、受注残高の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、横ばい～やや増加とする業者が多い。受注残高の増加や、前月の稼働日の関係で売上の前月比が増加したことなどから景況感が好転した業者も複数あるが、こうした業者であっても「景気は一進一退。全般には下降気味」との声が聞かれたほか、「5月中旬～6月の動きが悪い。大口が特に減少しており、製品在庫も減っている」「溶接品が減少」「全体的に仕事量減少との声が多い」「工作機械やや減少」などの声が聞かれ、更に、受注残高や販売高が前月より増加したにもかかわらず景況感が悪化した業者も複数見受けられた。先行きの見方は分かれるが、「7月の物件の動きが出てきているとの声も

ある」などやや増加を見込む声が若干多い。しかし、「その先は見えない。ユーロ問題での円高が心配」など不透明感を払拭するには至っていない。

原材料、資材価格に大きな動きはなかったとの声が多いが、物によってはやや下降した資材や、コストが上昇したものもある様子。製品価格は、概ね横ばい。「急ぎのものが多くは単価は低い」との声。雇用面では、「一人本採用。即戦力があれば採用も」「やや増員中」「増員。今後も非正規中心に増員」「一人増員。募集も継続」など積極的な声は少なくない。設備面では当月特に大きな投資はなかったとの声が多いが、「検討」「検討中」「次月以降に入れ替え」「予定あり」「ものづくり補助金活用」などの声は多い。

建築用金属製品の販売は、前月比減少との声が寄せられた。「例年のこの時期としてはさほど悪くはないが、下降傾向。各業者とも手持ち工事が少ない。都心の物件が出てくるのもかなり遅れていて少々不安」「商社の話では荷動きがかなり低下しているという」などの声。先行きも弱含んでいるという。雇用面、設備面で積極的な声。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

自動車向け装品の販売は、前月比、前年比とも減少、景況感悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。資材価格や製品価格に大きな変動はなかった様子。

小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばい。一部に前年比は減少との声も。先行きは、横ばいを見込む声がある一方、弱含みとする業者も見受けられた。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

FA関連モーターの受注残高の前月比は、「産業機械向け、車載向けともほぼ横ばい」との声が寄せられた。販売は前月に比べ増加しているが、これは「前月は稼働日の関係で販売高が少なかったが、今月は戻った」ため、景況感の好転には至っていないという。

レンズ、光学機器の販売は、前月比横ばい～やや増加、前年比はやや増加との声が多い。「液晶の製造設備業界は好調に推移している。海外インフラ関係も、在庫調整はあったが問題なく動いている」などの声が聞かれたものの、景況感の好転には至っていない。一部に先行き不透明感があるとの声があり、こうした業者では「客先、分野の分散を心掛けている」という。一部に原材料、資材価格やや上昇との声。また、製品価格について、当月若干下降しており、先行きも弱含みとの声がある。雇用面で、一部に「先行き不足する心配」との声。設備面では、「秋から冬にかけて設備導入開始」「実施予定」など積極的な声が多い。

電気、電子製品の生産は、前月比増加、「地方自治体や大手企業からシステムについての問い合わせが増えている」など景況感も好転との声が寄せられたほか、景況感の好転には至らないものの、受注残高の前年比が増加した業者も見受けられた。雇用面で「開発技術者が不足。開発部門の海外、他地域への移管の検討を始める」「不足。募集中」など不足感を指摘する声は多い。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が多い。「定番商品が安定的に動いた」などの声が聞かれたほか、「大分景気も戻りつつある」「上昇」など景況感も好転した業者も複数見受けられる。お盆商戦を控え、先行きの生産増加を見込む声は多い。こうした中、「イギリスのEU離脱など不安定要素は大きくなってきている」など経済情勢を懸念する声も寄せられた。雇用面では、現状維持の様子。設備面では、「計画中」「予定あり」など積極的な声も複数ある。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「円高効果に期待」との声。

水引製品の販売の前月比は、「計上のズレにより」増加との声もあるが、やや減少～横ばい。「概ね静かな業況」などの声。向こう数か月は弱含みとの見方が多い。「出荷が終わって一段落」ついた「お盆用品」について、「納品数、金額は昨年とほぼ同様」という。「市場は縮小傾向にあり、業者間の競争は激しさを増すだろう」「儀式の簡素化がますます進む昨今、現代に合った商品を展開する必要がある。まだ希望は見えていると思う。各業者が一丸となって方向性を見定め、前進したい」などの声も寄せられた。原材料、資材価

格について、前月比、前年比とも下降との声。複数の業者から、設備投資を実行ないし検討しているとの声も寄せられた。雇用面で、一部に積極的な声も聞かれたほか、「地元内職者の減少、生産現場の海外移転などで、簡単な細工でも納期によっては受注できないものが現れ始めた。地元で職人を育てていくことにも取り組んでいかねばならない」という。

漬物の販売は、前月比減少、前年比概ね横ばいとの声。「6月は例年『売れる月』ではないが、今年もその傾向だった」との声。「EU問題、円高、株安など今後の消費動向が非常に気になる。デフレ方向に再び振れることのないよう願っている」との声も寄せられた。

その他製造業

食品関連包材の販売は、前月比減少、先行きも弱含みとの声も寄せられた。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声も寄せられた。先行きは弱含みという。雇用面で「複数募集をかけているが、職種によっては応募者がいない。条件が悪いとも思えないのだが」との声も聞かれた。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったという。

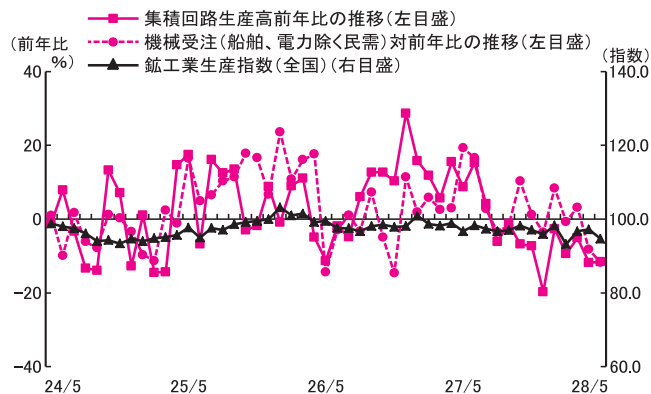
衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加、景況感も好転との声。「素材の投入遅れなどで春、夏物を6月まで引っ張って生産したため、例年以上の売上になった。しかし、秋、冬物の仕掛りが見えてこない。先行き苦戦しそう」という。「同業も、大手アパレルの販売不振が響いて苦戦している様子」との声も。雇用面、設備面では、「依然不足。今後ますます不足」「設備投資はストップ。次月以降に決定予定」などの声も聞かれた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器などの家具の販売は、前月比概ね横ばい、前年比やや減少、景況感悪化には至らないものの、「そもそも前回の増税以後に回復があったわけでもない中、消費増税先送りと言っても何も変わらず、落ち込んだままの状態。年末にかけて起爆材料も見当たらない。消費増税に伴う駆け込み需要も考えられたが、先送りによって落ち込んだ分をかき集めることができるのか、不安だけが残る」との声も寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★デフレに拍車がかかった感。アベノミクスの効果は感じられない。
- ★ものづくり補助金の話が聞こえてくるが、厳しいという話も聞く。
- ★いい所とそうでもない所の差は大きいと思う。
- ★後継者対策が必要となってきた。
- ★「建物及び機械増設」「工場リニューアル、小規模資材置き場」「増床工事開始」「生産エリアの増設検討」「倉庫、工場外回り、事務所内の整備」「冷暖房、LED取付」

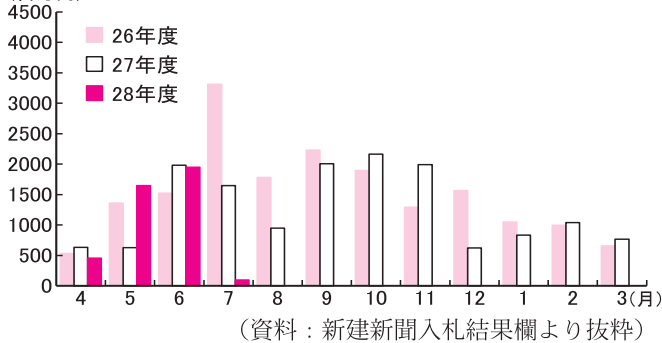
集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

月別入札額

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI	-20.0	(先月 -13.3)
翌月予測DI	6.3	(先月 0.0)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約19.5億円で、前月比は18%増加、前年比は2%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「今月に入り発注が出た」など、横ばい～やや増加との声が多い。景況感は、「受注単価の回復により好転」などの声はあるものの、総じてさほど好転しておらず、「前年に比べれば悪い」「公共事業は、昨年同様発注が少ないのでは。建設業はお盆過ぎまで暇ではないかと思われる」「公共事業予算が思っていたほど付いていない。減額」「県、市町村の発注が芳しくない。県の仕事は数も少なく、得意でない工種の工事にも入札者が多数あり、荒れている。品質が確保されるのか心配」「新規受注が少なく、受注残は減少する一方」「受発注に恵まれない状況が続いている」「新規受注が遅れている」などの声が多い。

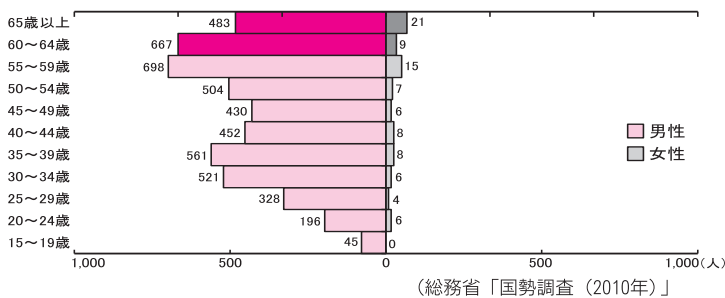
「三遠南信自動車道、リニア中央新幹線関連工事に期待するしかない」「今は変化が少ないがリニア関連工事は間違いなく出てくる。地域が良くなるのは数年先か」「リニア中央新幹線関連で着工になる工事がある。年末から動きが出る」など、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の関連工事に期待する声は多い。

「官庁工事は、総合評価物件が増えている。工事の実績や技術者資格で受注が決まり、中小は受注しにくい」「市町村の総合評価入札の中には公平に見えない場合もあるように思える」などの声が寄せられた。

資材価格では、「生コン」「ガソリン等」「油脂系」「燃料」などで上昇しているものの、それ以外は横ばいの様子。

雇用面では、現状維持ないしは「過剰」「余剰気味」などの声が多いが、一部に「次月から複数名新規採用」「建築社員不足」「技術者募集中」「職人、技術者採用を目指す」などの声が聞かれた。

2010年の飯伊地区建設、採掘従事者の人口ピラミッド



(総務省「国勢調査(2010年)」)

上のグラフは、2010年の国勢調査による飯伊地区の建設、採掘従事者総数の人口ピラミッドだが、2010年時点で60歳以上の建設、採掘従事者は全体の24%を占

めていた。国土交通省によると、全国で見ても2010年時点で60歳以上の建設技能労働者が全体の18%を占め、今後引退による労働者数の減少が続く、他の年齢層でも年齢の上昇が見込まれることから、「若手入職者の確保は課題」という。

民需

当地区の5月の住宅着工戸数は45戸。前月比22%増加、前年比は横ばい。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、やや増加との声も複数聞かれたが、こうした業者でも前年比が減少していることなどから、景況感が好転した業者は見受けられない。「仕事はあまり動かない」「公共のみならず一般工事、住宅等の受注はなく、良くない」「公共がない分、民間工事で仕事をこなしている」「官庁、民間ともに営業物件は少ない状況かと思う」「リフォームのみだが、受注残増加」「現状人員不足気味」などの声。資材価格、工事単価ともに当月大きな動きはなかったとの声が多い。

建設資材

建材、塗料の売上は、前月比横ばい～増加。「販促活動などで売上があったが、消費税増税が先延ばしになり、今年度の売上は油断できないと思っている」「雇用面で不足感があるが、当面現状維持」などの声が寄せられた。

鋼材の売上は、前月比増加も、前年比減少、「営業日が多かった分前月比増加も、土木、建築関係のみならず精密、機械などでも低水準で、売上の水準は最悪のペースで推移」との声が寄せられた。鋼材価格は横ばいの様子。

生コンの売上は、前年比増加。前月比は、地域によって「トンネル工事の動きが出てきてますます」など増加との声も聞かれたが、やや減少との声も少なからずあり、「3か月累計の前年比は過去最悪だった昨年より更に悪化。建設業界が厳しい中、建築業界でも消費税増税延期に伴って新築が減り、出荷に影響があると思われる」「当月多少出荷があったが、各組合とも厳しい状況」などの声が聞かれた。

骨材等の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい、前年比減少。「例年4～6月は売上が少ないが、生コン向け骨材の出荷が相当少ない」「在庫を作りたいが、支障をきたす恐れもあり時期を考えている」「決して多くはないが公共工事が出始めている。また、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道もそう遠くないうちに動き始める感がある。最悪期を脱しつつあるのではと期待している」などの声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★鋼材の売上は、県内他地区、近隣県ともに底を這っている。
- ★売上を欲張らず地元で必要とされる分野で、小規模でも確実に成果を出したい。
- ★橋梁、法面、トンネルなどの維持修繕工事に期待する。
- ★「設備投資は様子を見たい」「設備投資は少しずつやりたいが…」「パソコン複数増設」

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

6月 ○下伊那地方事務所分

新築 13件 (前年 9件)

増築 6件 (前年 1件)

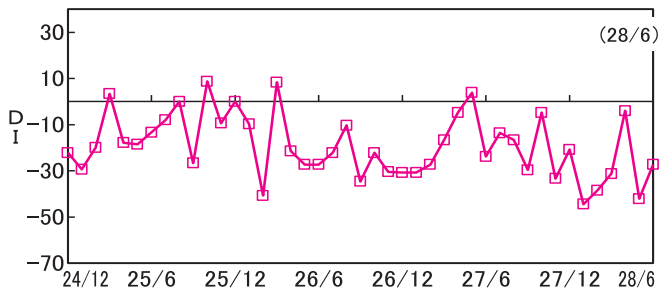
○飯田市役所分

新築 24件 (前年 28件)

増築 0件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-27.3 (先月 -42.1)
翌月予測DI	0.0 (先月 -47.4)

商業

食料品の売上は、一部に「昨年はプレミアム商品券の影響があったにもかかわらず、年対比微増」との声があるものの、「昨年比4か月連続で微減」など前年比やや減少との声が多い。仕入価格について「青果物の品不足があり上昇」などやや上昇との声が複数。設備面で積極的な声が複数聞かれた。一部に「パート従業員募集中」との声も。

【青果卸売市場】

売上は前月比、前年比ともにやや減少という。野菜は「昨年の高値の上に、キャベツ、きゅうり、ナス、生姜、大根等が1~2割高。一方人参、白菜、馬鈴薯は2割安で、全体では入荷量4%減で価格は4%高であった」という。果実は「輸入柑橘、国産柑橘ともに品薄で入荷量大幅減、全体でも入荷28%減となり、その分価格は15%高ではあったが売上高は大幅な減となった」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、先行きも増加を見込んでいるものの、景況感の好転には至っていないという。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともにやや増加との声。「リニューアルオープンのお店があり売上はやや増加」という。「多少の動きはあるものの、暑さがそれほどではなく、夏物はまだまだ」との声が寄せられた。

家電の売上は前月比やや減少～概ね横ばい、前年比は減少。「小型エアコンの台数が昨年同月より伸びている。家庭用の入れ替えの時期と重なっている様子」との声。「大型空調工事は、飯田下伊那での仕事が少なく、中信、北信へ足を伸ばすケースが出てきている」「自動車産業に関する工場関係は好調が継続」などの声が寄せられた。

OA機器の売上は、前月比、前年比とも減少との声。「軽減税率対策の補助金等が需要喚起のきっかけになると期待したが、先送り盛りに上がらない。秋からのマイナンバー運用の本格的スタートに向けセキュリティーへの意識付けから商談を作っていくが、状況はなかなか厳しい」という。

衣料品の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい。「大きな変化はない」「3月以降大幅に消費意欲が減少している感。来店数、客単価とも大きく減少」「4、5月は売上が若干落ち気味。今後、前年比の維持が目標」などの声。

娯楽用品の売上は、前月比横ばい、前年比減少も、景況感の悪化には至らないとの声。

土産物関連の売上は、前月比業者により増減分かれる。「来店客数減少による売上減に歯止めがかからず苦戦」との声。一部に雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比18%増加、前年比は9%減少。中古車は、前月比31%増加、前年比も7%増加した。5月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比ほぼ横ばい、前年比は14%減少。中古車は前月比25%減少、前年比は6%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比ともに

減少という。「商談少なく、受注の残りを納車後、新たな商談が発生しない状況を強く感じる。ディーラー各社も閑古鳥状態だったと聞く」との声。中古車市場では「円高傾向、海外の景気低迷が中古車の相場を下げている。仕入面で、総取引台数にあまり変動はないが、低年式車が占める割合が増えているなど良質な中古車の台数が減少し、台あたり単価が極端に下がった。それに連れ、平均して販売単価も下がる傾向」という。「販売、整備需要ともに明るい見通しは立たない。人口減少時代の実感が日に日に強まっていく感。県外大手は大規模な新拠点を展開しているが、中小企業は無理できないので現存するユーザーを大切に爾々と戦っていくしかない」との声が寄せられた。

サービス業

市内料理店の売上は、前年比減少。「昨年は例年暇になる6月が好調だったが、今年は例年にも増して暇な日が続いた。原因は定かでないが今までにない落ち込み」「ファミリーが少なかった」「イギリスのEU離脱など景気がよくなる話題が無い。今後の福祉が心配で年配の方もお金を使わない。消費税は上げるべきだったのでは」との声が寄せられた。

市内ホテルの売上は、前年比やや減少、「御柱、お練り祭りが終わり、前回と同じく売上は減少。加えて選挙のスケジュールも発表され宴会等も減少。予想しうる限り最悪の数字」との声。

昼神温泉の売上は、一部に横ばいとの声もあるが、前月比、前年比とも減少との声が多い。「ナイトツアーの休業と同時に宿泊も低迷。7月以降の宿泊予約もナイトツアーの問い合わせが多く影響は大きい」「ナイトツアー頼みは不安だが、次の一手が思い浮かばない」「ナイトツアーが始まらないとお客様が動かない。若干負の影響も考えられる」「熊本、大分方面の復興支援としての観光客の呼び込みや、昼神ライナーの取りやめなどの影響を注視」「改組した昼神温泉観光局が、今後どのような動きをしてくれるか期待」との声。雇用面で「人手不足。解消しない」「依然人員不足。募集はしているが、問い合わせは少ない」などの声が聞かれた。

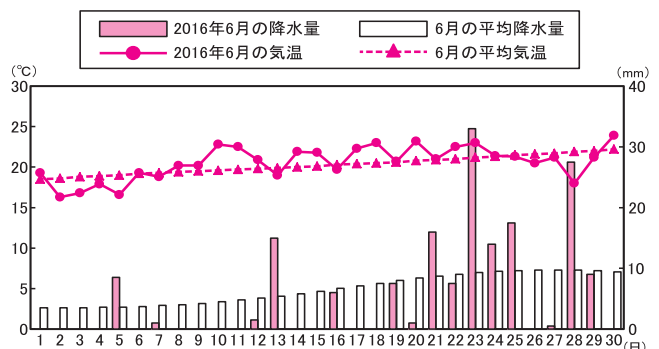
旅行代理店の売上は、前月比やや増加、「企業や団体のグループ旅行が多かった。形態としては、近場の日帰りグルメ旅行、都市部や温泉への1泊旅行を中心に、国内、アジアなど2~3泊するグループも。イギリスのEU離脱に伴い急激な円高が発生、この間海外旅行でされた方は円高の恩恵を受けた。今後の旅行代金に影響も」との声。

タクシーの売上は、前月比横ばい。「前年対比の落ち込みは少なくなってきたが、上向き感は一切感じられない」「公共交通としての継続したサービスの提供のため協力していくことが大切。価格競争でお客様に混乱を招く結果だけは避けたい」などの声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★イギリスのEU離脱、円高等企業の消費マインドが高まらない。
- ★選挙が終わりアベノミクスの成長戦略の行く末が期待される。

飯田の気温と降水量



三遠南信地域の「人口」

－ 主に RESAS を用いた三遠南信地域の人口の社会増減 －

飯田市と飯田信用金庫の連携により設立された「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」、愛知県東部の東三河地域の企業、行政機関などを会員に設立された「公益社団法人 東三河地域研究センター」、遠州信用金庫ならびに浜松信用金庫が共同で設立した「NPO法人 静岡県西部地域しんきん経済研究所」の3地域シンクタンクは、三遠南信地域の地域政策に関する調査研究における連携を目的とした様々な活動を行っている。

今回は、この7月に3地域シンクタンクが行った、三遠南信地域の「人口」、主に RESAS を用いた人口の社会増減に焦点を当てた共同統計調査の結果を紹介する。

RESAS（リーサス、地域経済分析システム）は、内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部が地方自治体の様々な取り組みを情報面から支援するため、産業構造や人口動態、人の流れなどのビッグデータを集約し可視化したシステムで、「産業マップ」「地域経済循環マップ」「農林水産マップ」「観光マップ」「人口マップ」「消費マップ」「自治体比較マップ」の7つで構成されている。一部に自治体専用となっているデータもあるが、それを除けばグーグルクロームなどから一般に利用可能となっている。

なお、今回の共同調査では、「南信州地域」は、飯田市と下伊那郡を指し、「東三河地域」は、豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村を指す。

○東三河地域の「人口」

1. 東三河地域の人口の状況

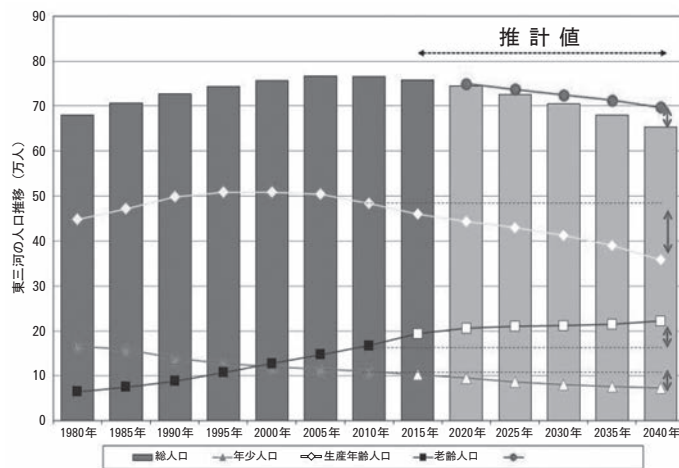
公益財団法人東三河地域研究センターによると、2005年に約77万人でピークを迎えた東三河地域の人口は、2015年には約76万人と約1万人減少し、2040年には約65万人に減少すると推測されているという。

また、生産年齢人口は、ピーク時の1995年に約51万人だったものが、2010年には約48万人と約3万人減少している。更に、2040年には約36万人で2010年に比べ約13万人減少すると予測されており、「この数値は2015年時点の田原市と新城市の人口とほぼ同数となっており、労働力不足に陥ることが懸念される」という。

2. 転入転出の状況

公益財団法人東三河地域研究センターによると、転入転出者数は大都市圏（※1）や近隣県（※2）以外の道県、国外などからの転入超過が見られる一方、東三河地域以外の愛知県内、大都市圏への転出超過が続いていて、「全体的には転出超過となっており、人口減少の要因の一つ」という。

また、転入転出者数を年齢階層別に見ると「転入については、20歳～29歳の年齢層が多く、就職等に伴うものと考えられ、転出については、15歳～24歳の年齢層が多いことから、進学等に伴う転出が多い」という。

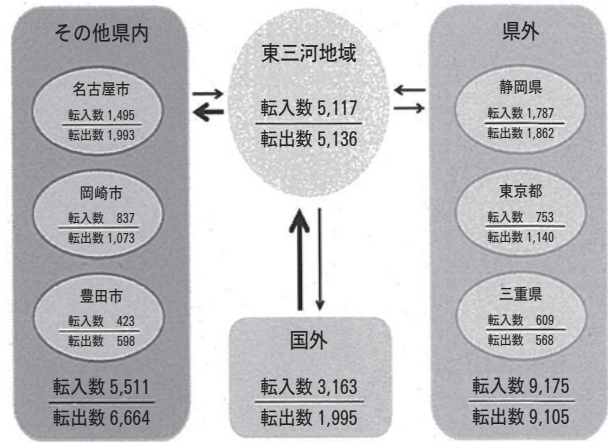
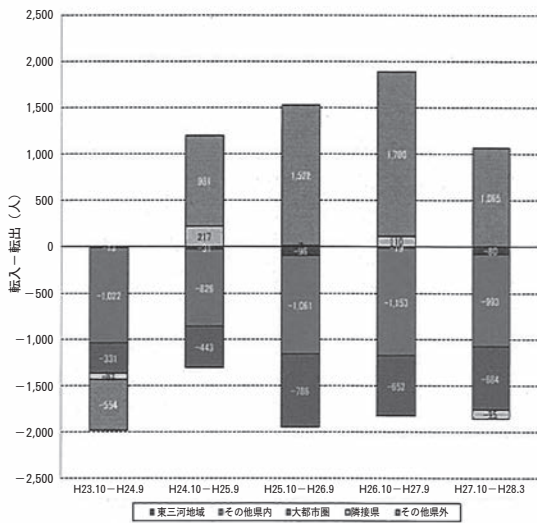


出典：RESAS（2010年までは実数値、2015年以降は推計値）、2015年国勢調査（速報値）、まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」に基づく各市町村発表の「地方人口ビジョン」を利用して作成
 ※2015年は、総人口のみ国勢調査（速報値）を使用し実数値、年齢階層別人口は RESAS を使用し推計値

こうした結果から、「教育の場をもとめ、東三河地域の若者が主に名古屋市へ転出してしまっていると考えられるため、教育の場の充実等、若者の転出をどのように減少させるかが今後の課題」としている。

※1 大都市圏：東京、千葉、埼玉、神奈川、大阪、兵庫、京都の7都府県

※2 近隣県：静岡、岐阜、三重の3県



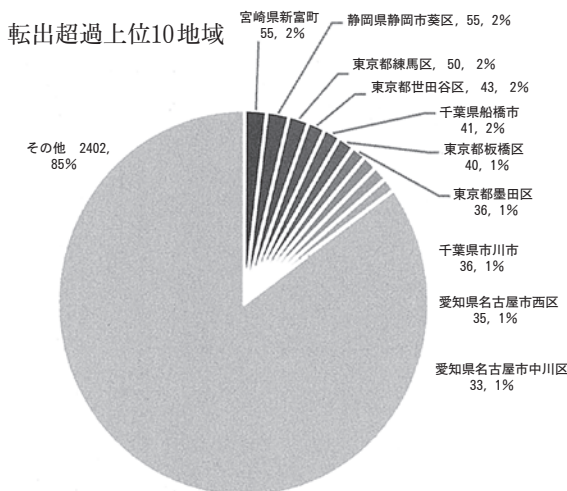
※上図の東三河地域内の転入転出者数が違う理由は、転出届、転入届の提出が集計とずれているためである。
 出典：愛知県HP「年報 あいちの人口」から市区町村別転入転出クロス集計表を利用して作成
 ※H27.10-H28.3は6カ月間での数値

○RESAS からみた浜松市の人口

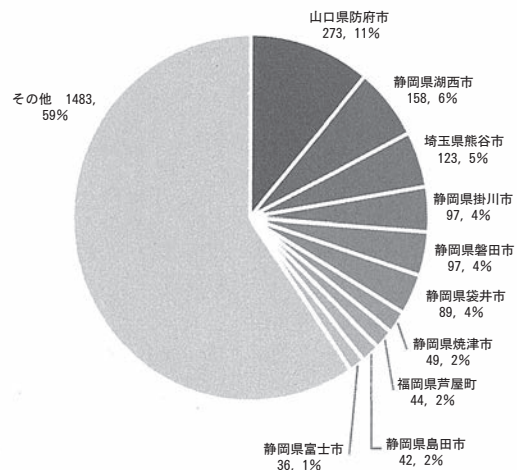
1. 人口の社会増減

NPO法人静岡県西部地域しんきん経済研究所によれば、RESASで人口の社会増減を見ると「転入超過上位10地域では、山口県防府市が273人で最も多く、次いで静岡県湖西市の158人が続き、転入超過上位10地域のうち、県外3地域、県内7地域」となっている一方、「転出超過上位10地域では、宮崎県新富町と静岡市葵区が並んで55人と最も多く、転出超過上位10地域のうち、県外9地域、県内1地域」だったという。

転入超過先、転出超過先ともに近隣他県や都市部ではない地域が見られるが、これらの地域は「自衛隊の基地や駐屯地がある地域」で、「浜松市にも航空自衛隊があるため、航空自衛隊を介した人口移動があると推測される」という。



転入超過上位10地域



2. 年齢階級別純移動

右のグラフは、例えば、浜松市の男性について「1980年の0～4歳人口が、5～9歳になった1985年に何人増減したか」を、1980年から2010年まで5年ごとに示したものである。

NPO法人静岡県西部地域しんきん経済研究所によると、「浜松市では、大学進学で「10～14歳→15～19歳」「15～19歳→20～24歳」に大幅な流出超、就職時の「20～24歳→25～29歳」に大幅な流入超となり、その後の増減は緩やかに推移する傾向がある」という。

ところで、最も新しいデータである「2005年→2010年」を見ると、「20～24歳→25～29歳」の流入が過去に比較して少なく、その後、50歳代前半まで流出超」となっており、「若年層の流入が減少し、勤労世代が流出する傾向が続けば、想定以上に人口減少が加速する懸念がある」としている。

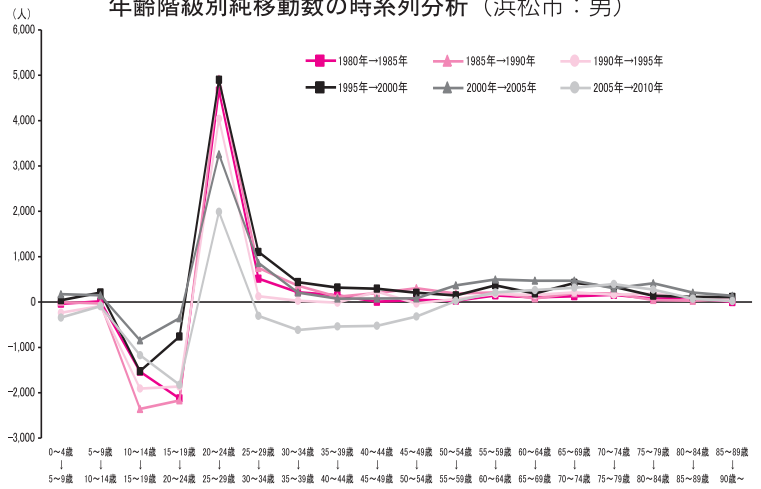
○RESAS で見た飯伊地区の人口社会動態

1. 飯伊地区の人口社会移動純移動数

NPO法人しんきん南信州地域研究所によると、RESAS で見た飯伊地区の人口社会移動純移動数（飯伊地区への転入数から、飯伊地区からの転出数を引いたもの）は、2010年以降、転出超過が続いているという。

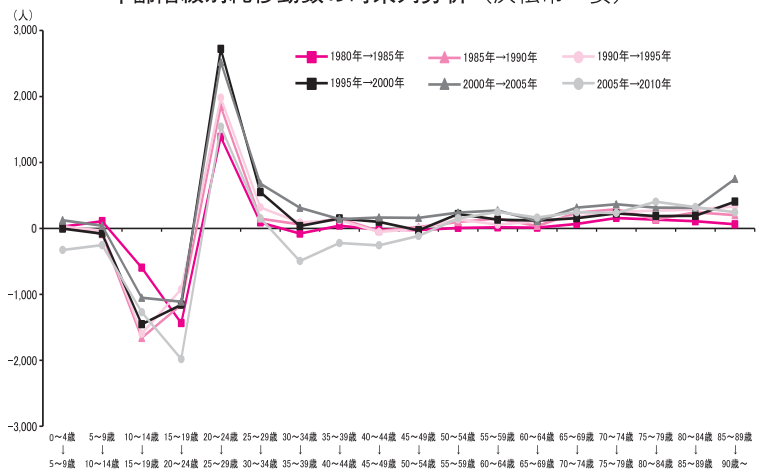
また、飯田市からの転出超過数について見ると、「住宅を取得する30代、40代で、飯伊地区の他の町村への転出超過数が多い一方、飯田市への転入超過数では、20代未満で飯伊地区の他市町村からの転入超過が見られ、また30代、40代では、飯伊地区内の他の町村からの転入超過はほとんど見られず、却って、平塚市、世田谷区、江東区といった県外市町村や南箕輪村などからの転入超過が見られ、職場の移動に伴う転入が一定程度あるものと思われる」としている。

年齢階級別純移動数の時系列分析（浜松市：男）



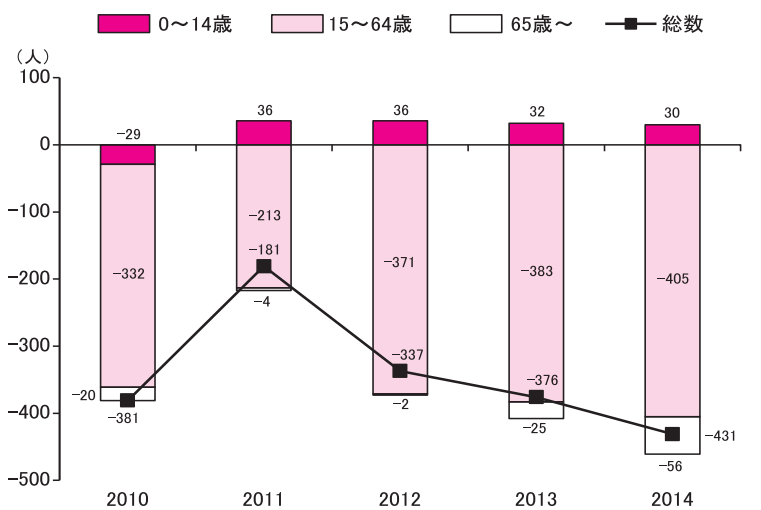
(資料：リーサス)

年齢階級別純移動数の時系列分析（浜松市：女）



(資料：リーサス)

飯伊地区の人口社会移動 純移動数



(資料：RESAS)

飯田市への転入超過数 上位10市町村

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
総数	下條村 43人	平塚市 31人	長野市 22人	南箕輪村 13人	上越市 13人	江東区 13人	津市 12人	練馬区 12人	清須市 11人	中津川市 11人
20歳代未満	下條村 9人	長野市 9人	上越市 6人	阿智村 5人	茅野市 5人	諏訪市 5人	岡谷市 5人	木曾町 4人	平塚市 4人	豊田市 4人
20歳代	下條村 14人	蕎木村 9人	長野市 8人	津市 6人	中津川市 6人	豊丘村 5人	泰阜村 5人	中川村 5人	須坂市 5人	平塚市 5人
30歳代	下條村 11人	平塚市 9人	上田市 8人	世田谷区 7人	江東区 7人	南箕輪村 6人	佐久市 6人	清須市 4人	名古屋市中区 4人	小諸市 4人
40歳代	長野市 16人	平塚市 9人	伊那市 8人	阿智村 3人	千曲市 3人	塩尻市 3人	諏訪市 3人	世田谷区 3人	津市 2人	清須市 2人

網掛けは飯伊地区の他町村 (資料：リーサス)

飯田市からの転出超過数 上位10市町村

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
総数	高森町 78人	阿南町 42人	松川町 29人	松本市 29人	豊田市 26人	天龍村 25人	八王子市 16人	中野区 16人	大田区 16人	名東区 14人
20歳代未満	高森町 27人	松川町 14人	豊丘村 9人	上田市 9人	瑞穂区 6人	中区 6人	松本市 6人	八王子市 6人	中野区 5人	豊田市 4人
20歳代	豊田市 11人	大田区 10人	中野区 9人	木曾町 8人	高森町 8人	新宿区 8人	中川区 7人	中区 7人	一宮市 6人	豊橋市 6人
30歳代	高森町 24人	松川町 15人	長野市 13人	蕎木村 6人	泰阜村 6人	松本市 6人	天龍村 4人	阿南町 4人	名東区 3人	瑞穂区 3人
40歳代	高森町 10人	上田市 7人	松本市 6人	佐久市 5人	豊田市 4人	春日井市 4人	松川町 4人	守山区 3人	蕎木村 3人	中川村 3人

網掛けは飯伊地区の他町村 (資料：リーサス)

2. 年齢階級別純移動数

浜松市と同様に年齢階級別純移動数を見ると、「男女とも「10～14歳→15～19歳」「15～19歳→20～24歳」の年齢階級で転出超過になり、それ以後の年齢階級で転入超過になる傾向が見られ、進学のため流出した人口が、就職時をピークに流入してくることを示している」としている。

また、「男性の「2005年→2010年」のデータを見ると、「30～34歳→35～39歳」から「45～49歳→50～54歳」の年齢階級、及び「70～74歳→75～79歳」から「80～84歳→85～89歳」の年齢階級で、過去とは異なって転出超過となっている」という。

女性の場合も、「2000年以降、「30～34歳→35～39歳」の年齢階級から「45～49歳→50～54歳」の年齢階級で、転入超過数の縮小、ないしは転出超過が見られる」としている。

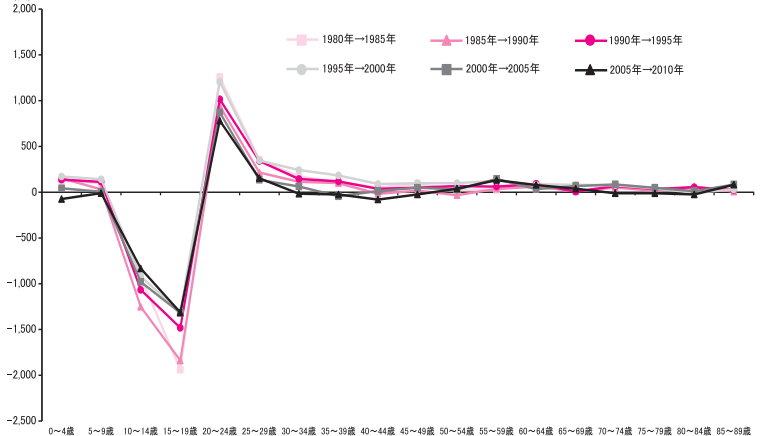
○まとめ

これらの調査結果によると、近時の東三河地区や飯伊地区の人口社会移動は転出超過となっていることが分かる。

右のグラフは、RESASによる「2005年→2010年」の東三河、浜松市、飯伊地域の人口社会移動純移動数だが、いずれの地域でも15歳～24歳の年齢層で進学等に伴う転出が多い一方、就職時の20歳～29歳の年齢層で大幅な転入超過となっていることが明らかとなった。

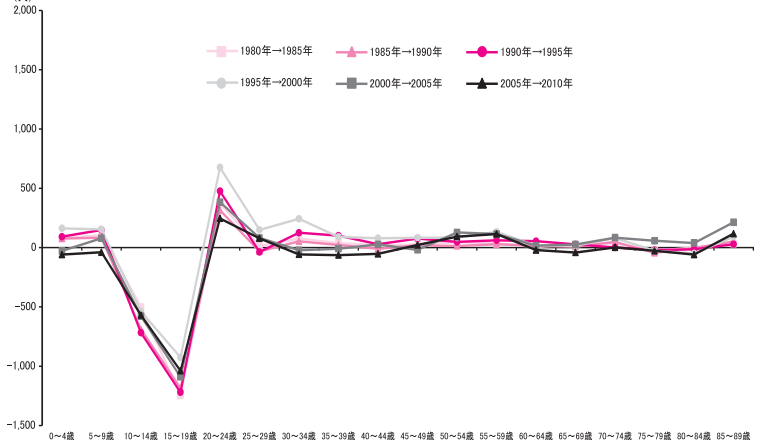
また、この間の20歳代後半以降の純移動数は、過去と比較して転入が少ないか、あるいは転出超過となっている点でも3地域とも共通している。リーマンショックの影響もあってか、これらの世代で居住地を移転した様子が窺える。

年齢階級別純移動数の時系列分析（飯伊地区：男性）



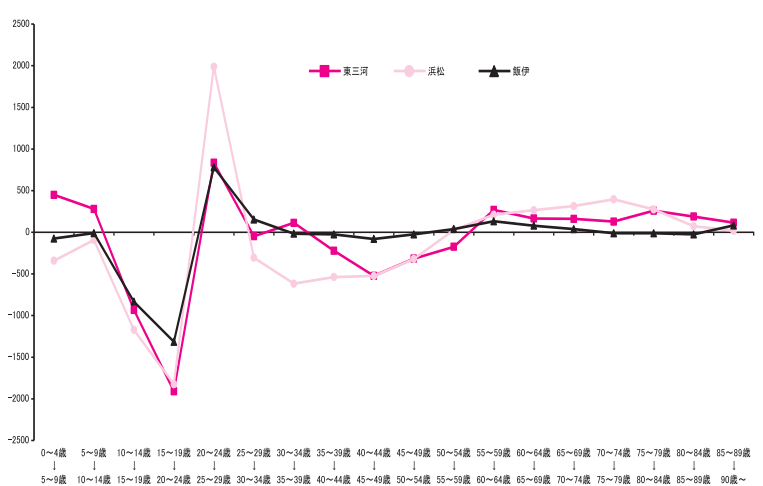
（資料：リーサス）

年齢階級別純移動数の時系列分析（飯伊地区：女性）



（資料：リーサス）

東三河、浜松市、飯伊の年齢階級別純移動数（2005年→2010年：男）



（文責：飯田信用金庫 経営相談所 中村達）

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

今回執筆を担当する当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 経営相談所（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

流れ雲の目（12） 法令遵守と倫理性

飯田信用金庫 経営相談所
専門アドバイザー 小泉 敏郎

昨今テレビで話題となったニュースに、前東京都知事の問題がある。

事の真相はともかく、この件では 不適切であるが法には触れていない、とグレーゾーンを表す表現が盛んに使われた。

当たり前のことだが、不適切とは適切でないということだ。

それならば、法に触れなければ何をしても罰せられることなく、許されてしまうということだろうか？

でもそれは、やはり人間性に悖るのではないか。

法令遵守と倫理性は大きく違う、ということだ。法令遵守とは、法律的に絶対にやってはいけないことであり、やればそれなりの法的な強制を受けるということだ。

辞書を引くと、倫理とは、人として守り行うべき道。善悪正邪の判断において普遍的な規準となるもの、と書いてある。

倫理性とはどういうことかという、法に触れなくても、社会通念として、常識として、人としての良心に照らしてみても、してはならないということではないか。道義的に許されるかどうかという、それだけを取り上げて考え込んでしまうと非常に不明確な部分ではあるが、現場で生きる良識ある人間から見ればすぐに分別の付くことである。

会社経営で一番大事なことは何だろうか。確かにいろいろあるが、やはり利益を出して従業員に安定した生活を保証し、社会に貢献する。そして明日への投資をし、会社を継続していくことだろう。

では、利益を出すためには何をしても良いのか？法に触れなければ許されるのだろうか？

そこでこの倫理観が問われ、それが社長、会社の評価に繋がるのではないか。

経営者があまりにも利益確保に貪欲になると、欲のあまり思考がどんどん泥沼に浸かることになる。最初のうち、我社は正しいことをやっているだろうか？この程度の疑問から始まり、そして次に この行為は法的に問題はないだろうか？ということになり、最終的には どうやれば法の網をくぐれるか？ということになってしまう。

ほんの些細なことから始まり、それが慢性的に行われると徐々に麻痺して、いつしか この程度なら、とエスカレートしていく。人間は結構弱いもので、最初のついついも、日常化していくと一段上のついついに発展してしまう。

こうなると、経営者として一番大事な信用をなくすことになる。他人は、特に部下、社員は、経営者の発言、行動、一挙手一投足を注意深く観察しているもので、経営者のモラルの低下はやがて部下に伝染していくものだ。

そうなると会社全体のモラルが低下し、ひいては会社業績にも悪い影響を当然及ぼす。

魚は頭から腐っていくものらしい。

ある海外の大手企業の会長の話を聞いたことがある。

その会長が新任社長に贈る言葉が二つあった。一つは後継者育成ということだが今回は省き、もう一つのことを記したい。

会社経営でまず一番大事なことは業績を伸ばし利益を出すことだが、如何なる事情があるにせよ、倫理的に問題のあることは絶対にしてならない、ということだった。

例えば昨今の自動車業界で、海外のみならず日本でも、性能、燃費の問題等がいろいろと出てきている。各社熾烈な競争をしているのは当然だが、会社ぐるみのこうした行為には唾然とするものがある。

もう一つ海外の別の話だが、経営者にとって最も重要な資質は二つあるという。

一つは平均を上回る知性。そしてもう一つは、極度に高い倫理性、というのである。

頭脳の程度は天才や秀才である必要はなく平均を上回る程度にあれば良いが、倫理性は違う。経営者であれば並外れた倫理性を持たねばならない、ということらしい。

経営者に倫理性なくして事業継続はありえない、ということだ。

製造業で、製品の品質、性能を親会社の基本スペックからほんの少し落としても大きな問題にはならないだろう、クレームにもならないだろう、もともとオーバースペックなのだから、と勝手に担当者が手抜きをしたり、材料を変更したりして、材料費、加工時間を削減し、ノルマを果たしたとする。

当初は何の問題も無く、効率も上がり、収益性も上がってくる。社長も部下を信じそのまま製品を出荷し続ける。

しかし、ある時点で必ず大きな問題が発覚してくる。

親会社の基本スペックは、長年の経験値も含めてそれなりの根拠に基づき決められているし、あらゆる環境下での使用に耐えられる様に設定されているのだから、どこかで問題は発生してしまう。

このような例はあちらこちらの業種でも見られることだが、やはりこれを社員だけのモラルの問題で済ますわけにはいかない。社長の倫理性に因るところ大、というべきだろう。

法の規制が発動されるのは明らかに一線を越えたときの話だ。だからそれ以前のグレーゾーンは、不適切であるが法律で罰せられない、ということになる。

グレーゾーンの範囲にあってこそ、人間、会社の行為、行動に人間性が問われるのだ。

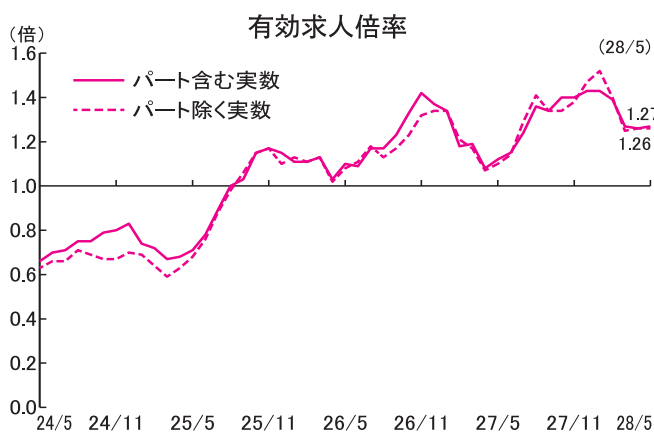
どんなに頭が良く、学歴があり、実績を出し、評判が良くても、倫理観なくしては、一人前の社会人、まして人格者には程遠い、と言わざるを得ない。

人の振り見て我が振り直せ、と祖母によく言われたことを思い出す。

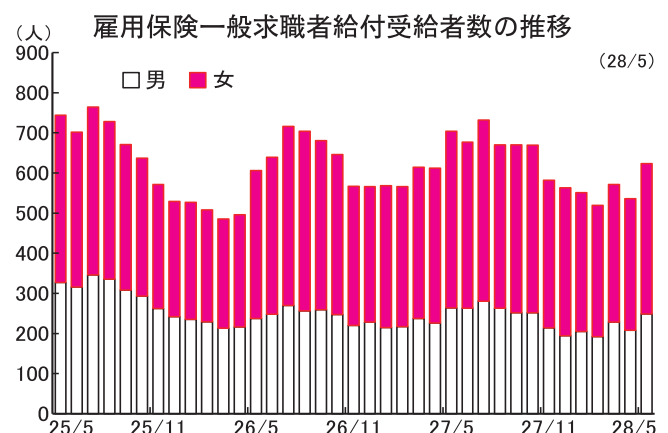
改めて人生を振り返り、明日に向かって進むべき道を邁進しようではありませんか。

お互いの人生、そして貴方の企業の繁栄を期待します。

雇用の状況



5月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.27倍と前月から0.01ポイント上昇。パートを除く実数は1.26倍で前月から横ばいとなっている。



5月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は41人増加、女性も46人増加しており、全体では623人と前月から87人増加している。

(資料：ハローワーク 飯田)

主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高速バス乗車人数					
	飯伊地区		飯田～新宿		飯田～名古屋		飯田～長野	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	戸	%	人	%	人	%	人	%
平成22年	588	△ 23.0	334,765	△ 0.6	189,908	4.4	148,505	△ 13.5
23	557	△ 5.3	322,932	△ 3.5	186,915	△ 1.6	118,624	△ 20.1
24	519	△ 6.8	328,149	1.6	186,582	△ 0.2	116,485	△ 1.8
25	737	42.0	325,892	△ 0.7	190,248	2.0	113,743	△ 2.4
26	569	△ 22.8	322,878	△ 0.9	195,359	2.7	112,889	△ 0.8
27	563	△ 1.1	329,654	2.1	203,315	4.1	124,261	10.1
平成27.4	52	△ 3.7	24,297	1.4	15,014	1.7	11,226	20.7
5	45	△ 45.8	29,075	5.4	17,549	7.6	14,307	41.3
6	46	7.0	23,905	3.7	14,694	2.3	10,418	3.4
7	53	17.8	25,446	0.1	16,135	1.7	9,993	0.7
8	67	45.7	38,122	△ 1.1	21,032	3.9	10,861	2.1
9	60	39.5	28,095	2.5	17,371	8.9	9,672	2.6
10	42	13.5	27,359	△ 0.9	17,700	9.7	10,841	13.0
11	58	34.9	26,192	△ 4.7	17,564	5.5	9,957	6.3
12	47	△ 6.0	27,708	△ 0.0	17,019	4.3	8,886	7.8
平成28.1	37	△ 11.9	25,395	△ 6.2	16,384	1.6	8,756	△ 1.1
2	43	16.2	22,895	2.6	15,101	1.6	8,620	1.4
3	51	264.3	30,309	0.8	18,941	3.8	10,456	△ 2.7
4	37	△ 28.8	25,220	3.8	14,959	△ 0.4	9,956	△ 11.3
5	45	0.0	28,250	△ 2.8	16,930	△ 3.5	10,360	△ 27.6
6	—	—	22,591	△ 5.5	14,856	1.1	9,900	△ 5.0
資料出所	長野県建設部住宅課		信南交通株式会社					

項目 年月	自動車新規登録台数 (松本登録事務所管内)				有効求人倍率	
	新車		中古車		長野県	飯田管内
	実数	前年比	実数	前年比	季節調整値(但、年平均は実数)	
	台	%	台	%	倍	倍
平成22年	30,100	12.6	7,085	1.0	0.57	—
23	24,943	△ 17.1	6,983	△ 1.4	0.72	—
24	32,028	28.4	7,390	5.8	0.81	—
25	30,532	△ 4.7	7,660	3.7	0.87	—
26	30,089	△ 1.5	7,058	△ 7.9	1.09	—
27	30,124	0.1	7,819	10.8	1.25	—
平成27.4	2,077	10.5	766	26.2	1.24	1.22
5	1,958	3.4	638	15.6	1.25	1.20
6	2,735	17.0	723	23.0	1.25	1.21
7	2,591	△ 6.4	744	12.7	1.26	1.29
8	1,873	6.4	559	7.5	1.26	1.24
9	3,000	3.6	624	5.6	1.27	1.19
10	2,320	1.6	677	14.4	1.28	1.15
11	2,226	4.3	580	14.6	1.28	1.21
12	2,303	9.1	626	7.9	1.28	1.38
平成28.1	2,199	3.8	436	2.8	1.33	1.70
2	2,333	△ 12.1	573	0.4	1.31	1.35
3	3,968	△ 7.1	922	3.9	1.31	1.47
4	1,991	△ 4.1	700	△ 8.6	1.39	1.43
5	2,105	7.5	586	△ 8.2	1.43	—
6	2,485	△ 9.1	770	6.5	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				長野県労働局・ハローワーク飯田	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	手形交換高		倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	枚数	金額	長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	枚	千円	件	件	件	%
平成22年	78,757	110,971,297	151	19	1,958	△ 23.2
23	72,078	92,170,690	155	13	2,132	8.9
24	65,692	86,556,524	138	17	1,913	△ 10.3
25	60,405	81,013,729	113	8	2,018	5.5
26	55,798	58,747,886	97	6	2,057	1.9
27	51,892	58,937,709	86	12	2,120	3.1
平成27.4	4,375	4,788,346	6	0	121	△ 4.0
5	3,810	4,530,613	8	0	127	△ 5.9
6	5,068	6,221,557	8	3	174	18.4
7	4,480	4,955,452	8	0	192	△ 4.5
8	4,198	5,158,828	5	0	162	20.9
9	4,095	4,468,574	10	3	214	△ 6.1
10	3,568	3,431,913	7	3	169	5.6
11	4,459	4,693,258	5	0	143	△ 8.3
12	4,174	4,939,413	8	1	234	8.8
平成28.1	3,670	4,132,486	7	0	112	△ 14.5
2	4,527	5,291,046	9	1	161	△ 5.3
3	4,247	4,903,346	10	1	277	△ 2.1
4	3,360	3,588,321	7	1	132	9.1
5	4,493	5,008,672	5	0	138	8.7
6	3,934	4,815,045	6	2	158	△ 9.2
資料出所	飯田手形交換所		下伊那地方事務所商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

項目 年月	中央道利用台数 (インターチェンジ出入合計)							
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%
平成22年	2,989,200	△ 1.6	1,864,582	△ 0.2	391,039	△ 1.9	938,008	9.0
23	2,917,737	△ 2.4	1,851,218	△ 0.7	372,191	△ 4.8	950,485	1.3
24	2,933,104	0.5	1,913,719	3.4	376,518	1.2	1,010,571	6.3
25	2,970,606	1.3	1,939,863	1.4	417,360	10.8	1,070,386	5.9
26	2,782,563	△ 6.3	1,835,138	△ 5.4	364,566	△ 12.6	979,398	△ 8.5
27	2,780,683	△ 0.1	1,821,617	△ 0.7	435,939	19.6	1,047,675	7.0
平成27.4	218,731	△ 2.2	142,284	△ 0.3	35,514	20.5	85,619	7.2
5	248,515	2.8	159,538	3.0	46,663	13.8	96,580	2.3
6	219,337	△ 1.6	143,565	△ 1.9	25,832	21.5	77,774	5.5
7	235,349	0.6	150,935	△ 1.5	35,670	27.8	87,376	8.9
8	258,274	2.8	166,368	△ 0.2	50,308	37.2	110,884	13.9
9	243,504	3.4	161,696	△ 1.8	44,897	44.0	98,057	13.7
10	257,669	7.9	171,575	4.6	50,261	47.1	105,889	20.8
11	241,224	△ 1.7	176,682	△ 3.5	34,790	△ 0.5	96,513	3.6
12	225,302	2.5	148,024	2.7	27,655	18.6	79,038	11.3
平成28.1	207,069	△ 0.5	126,156	△ 2.9	30,469	5.1	71,319	4.6
2	196,086	2.8	122,344	△ 1.0	29,832	11.7	69,690	11.2
3	236,486	1.1	146,710	△ 0.5	30,044	4.9	81,780	3.4
4	219,698	0.4	138,538	△ 2.6	38,704	9.0	84,158	△ 1.7
5	233,685	△ 6.0	149,561	△ 6.3	34,673	△ 25.7	88,828	△ 8.0
6	220,412	0.5	145,235	1.2	19,467	△ 24.6	74,196	△ 4.6
資料出所	中日本高速道路(株)名古屋支社飯田保全サービスセンター							